

2020年5月3日 主日礼拝説教要旨:士師記シリーズ ③

士師記 4:1～16 「デボラとバラク」

高井 卿 介

私たちの「みことばの家」の礼拝では、10回に亘るヨシュア記からの説教に続き、次の書の士師記からの説教に入り、「最初の士師オテニエル」と「左利きのエフデ」とを話した。そこで、今朝は女預言者デボラと共に働いた「士師バラク」を話したい。

なお、士師記には9章の「アビメレク」を除いて、12人の士師(さばきつかさ)が登場する。そのうち6人は詳しい記述があり、これを「大士師」と呼び、それ以外は名前と支配期間しか書かれていないので「小士師」と呼ばれている。

### I. 士師記の図式(パターン)

4:1～6には四つの出来事が書かれている。①「主の目に悪を行った」 ②「カナン之王ヤビンの手に彼ら売り渡した」即ち、敵に苦しめられた。 ③「主に叫び求めた」 ④それに対して神は女預言者デボラと士師バラクによってイスラエルを救われた。

この四つは英語にすると、①Sin(罪) ②Suffering(苦難) ③Supplication(嘆願) ④Salvation(救い)となる。

なお、聖書の中の「女預言者」はデボラの他に、モーセとアロンの姉「ミリアム」(出エジプト記15:20)と「アンナ」という老婦人(ルカ2:36～37)がいる。

### II. あなたがいっしょに行ってくださいなら(4:8)

女預言者デボラは神のことばを受けて、ナフタリ部族のバラクを呼び出し、彼に主のことばを伝えた。これに対するバラクの応答が「もしあなたが私といっしょに行ってくださいなら、行きましょう。しかし、もしあなたが私といっしょに行ってくださいらないなら、私は行きません」(8節)で、これは多くのクリスチャンに誤解を与えている。

即ち、「何て意気地のない男か」と思われている。しかし、バラクが望んだのは「ラピドテの妻」のデボラでなく、神のことばを預かり、神と共にいるデボラであった。

バラクにはエズレル平原のタボル山の一万人の兵ではなく、デボラと共にいる神に期待していたのである。

また、デボラが言ったことば、「あなたは光栄を得ることはできません」(9節)も気になる。しかし、バラクが願っていたのは、イスラエルの勝利であって自分の光栄ではなかった筈である。

そのバラクが指揮するイスラエル軍がカナン軍に勝利したのは、5:20～21にあるように、神が天から大雨を降らせ、エズレル平原の南部を南西に地中海に注ぐキシオン川が氾濫し、そこに陣取っていたカナン軍の九百両の戦車が泥濘にはまり、動けなくなったところに攻め込まれたからであった。

### III. 女の中で最も祝福されたヤエル(5:24)

カナン軍の将軍シセラはモーセの血筋のヘベルの妻ヤエルの天幕の中に逃げ込んで、ヤエルによって命を失った。私たちも自分の立場で主に忠実であるならば、主から光栄を与えられる。

